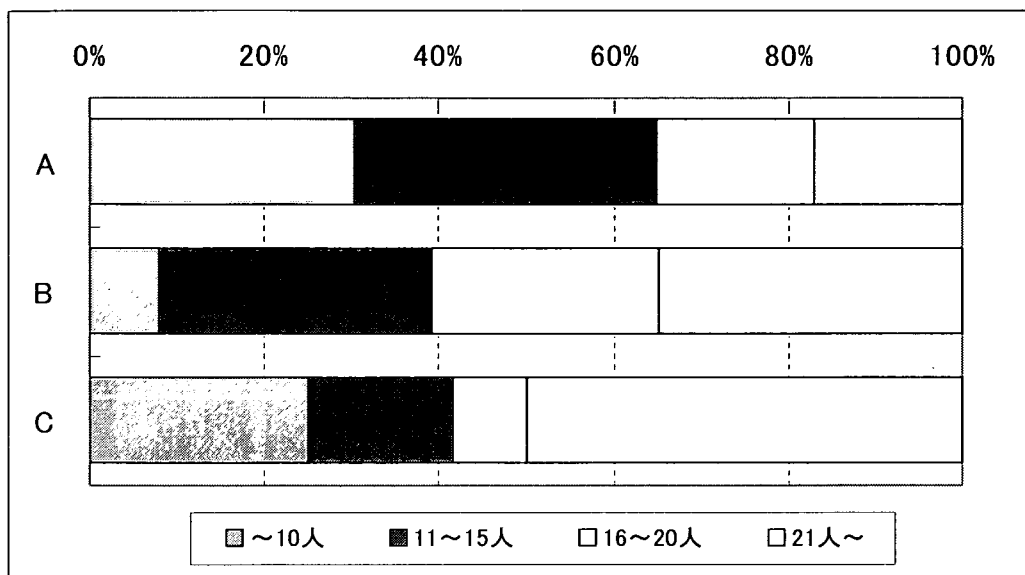
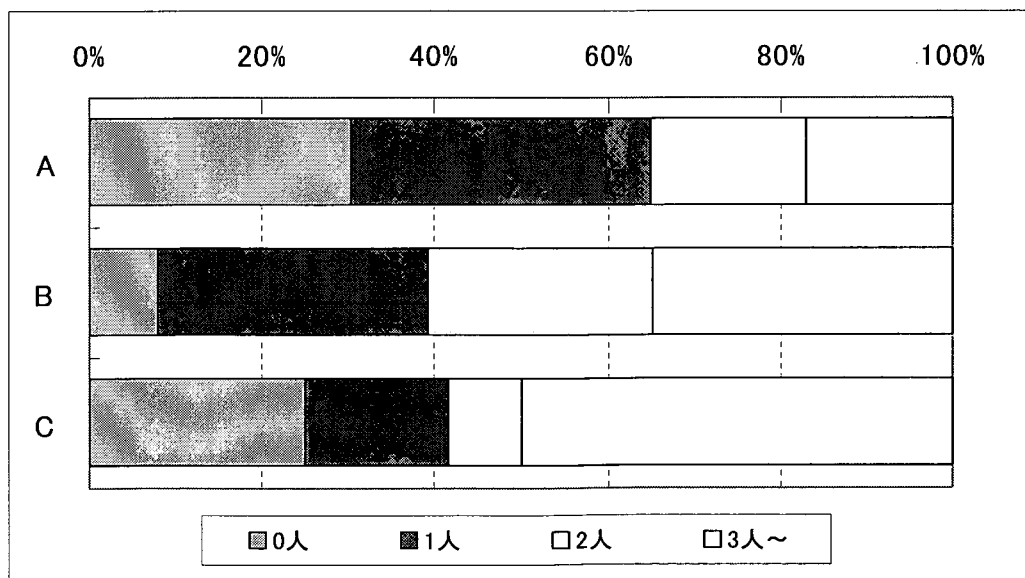


薬剤師数



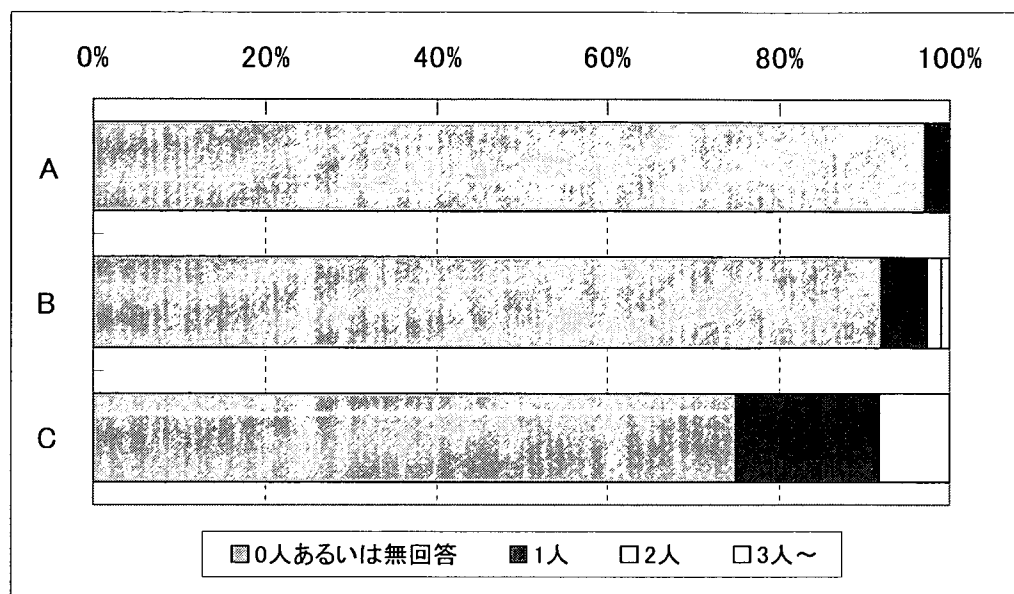
A: その他の病院 B: 地域がん診療連携拠点病院
C: 都道府県がん診療連携拠点病院

病理医数



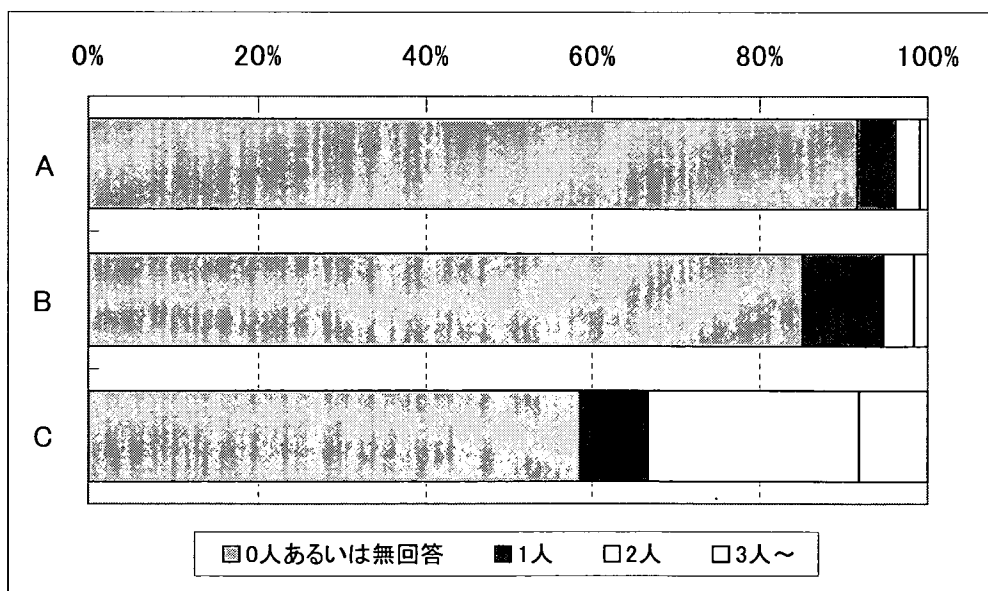
A: その他の病院 B: 地域がん診療連携拠点病院
C: 都道府県がん診療連携拠点病院

医学物理士数



A: その他の病院 B: 地域がん診療連携拠点病院
 C: 都道府県がん診療連携拠点病院

放射線治療品質管理士数



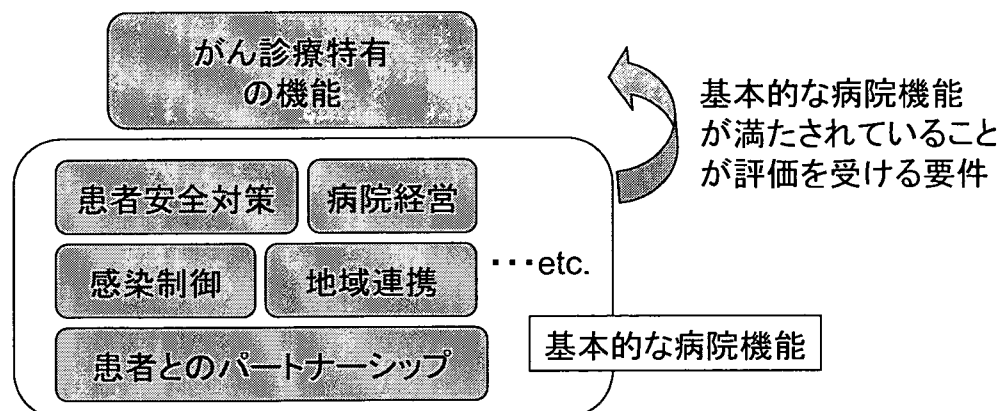
A: その他の病院 B: 地域がん診療連携拠点病院
 C: 都道府県がん診療連携拠点病院

実態調査結果

第1領域	組織運営と地域連携	病院の基本方針にがん診療に関する記載がある・・・23% 地域と連携し24時間対応可能な緩和ケアを提供・・・15% 一般住民を対象としたがんに関する教育・・・29%
第2領域	患者権利と安全確保	告知後の患者の心の支援に関する教育・研修・・・30% 診療録開示の方針の明文化・・・99%
第3領域	療養環境と患者サービス	医療相談室の専任者を有する・・・90% 患者向けに開放された図書室・・・30%
第4領域	医療提供の組織と運営	がん診療の標準化を各診療科の裁量に任せている・・・70% 化学療法・放射線療法・手術のクリニカルパスとバリエーション分析・・・75% 標準様式に基づいた院内がん登録システム・・・40% 多職種・多診療科にまたがるがん症例検討会の実施・・・16%
第5領域	医療の質と安全のためのケアプロセス	外来化学療法に対する医師の配置・・・78% 外来化学療法のレジメンの事前登録・・・75% 緩和ケアチームを有する・・・48% 疼痛評価基準を院内で統一・・・40%

第三者評価の受審条件

- がん診療病院の認定には、基本的な病院機能の質が一定以上に維持されていることが必要と考える。
- 第三者評価を受けて認定を受けていることをがん診療機能評価の前提条件とすべきであろう。



平成19年研究経過：現地調査

- 第一回(栃木県立がんセンター)
→都道府県がん診療連携拠点病院のモデルケース
 - 第二回(徳島大学病院)
 - 第三回(徳島県立中央病院)
- } 特定機能病院とがん診療連携拠点病院の連携の実情の把握
- 第四回～(中小規模病院を予定)
→中規模な地域の中核病院におけるがん診療機能評価の試行調査

評価体系

第1領域	病院組織の運営
第2領域	患者の療養環境とサポート体制
第3領域	がん医療の標準化・適正化のための取り組み
第4領域	がん看護の提供体制
第5領域	薬剤部の機能
第6領域	病理部門の機能
第7領域	放射線治療の提供体制
第8領域	緩和ケアの提供体制
第9領域	がん医療の安全確保体制
第10領域	医療連携機能
第11領域	リハビリテーション機能
第12領域	栄養サポート機能

■ 第1領域 病院組織の運営

1.4 職員教育・臨床研修

1.4.1 がん診療に関する教育・研修が職員に対して行われている

- 1) がん診療部門の職員への教育・研修の開催数
- 2) 院内各部門の職員へのがん診療に関する教育・研修の開催数
- 3) 研修・学会参加の予算が確保され、参加費・交通費が支給されている、あるいは5年以内に支給される予定がある
- 4) 各種ガイドライン、米国立がん研究所のデータベース・標準的な教科書など、がん治療に関する最新の情報を得るために必要な高速インターネット設備があり、誰でも利用できる環境にある

第3領域 がん医療の標準化、適正化のための取り組み

3.1 診療の標準化

3.1.1 診療ガイドラインの採用が施設レベルで検討され運用されている

- 1) がん診療ガイドラインの採用が診療委員会などで決められ、各診療科レベルで実際に運用されている

3.1.2 各種がん治療に関して標準的な治療を提供するための取り組みがなされている

- 1) 各種がんの化学療法・放射線療法・手術に関するクリニカルパスが、各種ガイドラインやエビデンスに基づいて作成され、審査のうえで運用されている

3.3 適切な薬物治療

3.3.1 薬物治療(抗体、分子標的治療も含む)を安全に実施するためのスタッフが配置されている、あるいは配置される予定がある

- 1) 化学療法に精通した医師(学会認定医: 暫定認定を含む)が配置、あるいは配置される予定がある(暫定認定を含む)

* 学会認定医はまだ少ないため、数年後に評価する

3.3.2 レジメン審査・登録・管理が適切に行われている

- 1) 化学療法の専門知識を持つ医師・薬剤師・看護師などが参加するレジメン審査体制が適切に運用され、提出されたレジメンを診療領域ごとに科学的根拠に基づいて審査し、全てのレジメンを対象として一元的な登録管理・定期的メンテナンスを実施している

第9領域 がん医療の安全確保体制

9.2 がん薬物療法を安全に提供する環境が整備されている

9.2.1 安全確保について組織的に検討する仕組みがある

- 1) 組織的に検討する仕組み(委員会など)がある

9.2.2 安全な投薬が行われるよう、薬剤部が注射用抗がん剤の処方を評価・監査している

- 1) レジメン管理を含めたオーダーリングシステム
- 2) 調剤方法のマニュアル
- 3) 処方監査(チェックシート・薬歴確認・複数の監査)
- 4) 調製マニュアルの有無、秤取量の再計算、使用済アンプル数やバイアル数の確認
- 5) 調製後の監査

今後の改善点

- がん診療における評価基準は策定したが、具体的な評点付けの際に、施設間の比較を容易に行える量的な評価を如何に行うか。交絡因子(治療前の病態、患者グループ年齢、等々)の補正には限界があるため、単純なOutcomeの比較では望ましくない結果を惹起しかねない。
- また、それぞれの施設が位置する地域において果たしている役割はその地域特有のものであるため、画一基準で評価をすすめるのはかえって弊害を生む可能性が高い。
- 訪問評価者(第一線のがん専門家)個人の過去の経験に拠る部分も大きく、それら個人差が排除できないこと、等々がある。
- 恣意的な評価を防ぎつつ、いかにして地域のニーズを勘案した機能評価を行いうるのが大きな課題である。

資料5 試行調査概要

平成 19 年度がん臨床研究事業
医療機関がん診療機能の客観的・第三者評価標準システムに関する開発研究

がん診療機能評価試行調査実施概要

第 1 回試行調査

1. 日 時：平成 19 年 11 月 12 日（水）
2. 場 所：栃木県立がんセンター
（都道府県がん診療連携拠点病院）
3. 目 的：都道府県がん診療連携拠点病院のがん診療機能の実態を把握し、評価項目の妥当性の検証を行う
4. 参加者：

【研究者】 3 名

- 高上 洋一（国立がんセンター中央病院薬物療法部長）
- 加藤 裕久（国立がんセンター中央病院薬剤部副薬剤部長）
- 森 文子（国立がんセンターがん対策情報センター）

【機構事務局】 2 名

- 辻 典明（財団法人日本医療機能評価機構研究開発部）
- 山口 亜弓（財団法人日本医療機能評価機構研究開発部）

【病院側研究協力者】

- 児玉 哲郎（センター所長）
- 副病院長、薬剤部長、看護部長、事務局長など

5. 当日の進行

時間	内容	場所・病院側出席者など
12:50～13:00(0°10')	□研究者集合	病院正面玄関
13:00～13:45(0°45')	□開始挨拶・資料確認 ※挨拶およびメンバー紹介 ※スケジュール確認と調整 ※進め方および資料の確認など □インタビュー ※がん診療体制や活動等の概要について確認	※ 院長、看護部長、関連部門の診療責任者など
13:45～16:00(2°15')	□関係部署・病棟の訪問 ※インタビュー・資料・状況の確認などによる評価および改善支援	【病棟】 ・患者療養環境 ・チーム医療の中で看護師が果たす役割の確認

		<p>西第 6 病棟 化学療法科 西第 4 病棟 外科(消化器)</p> <p>・緩和ケアの提供体制 東第 5 病棟 緩和ケア科</p> <p>【薬剤部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジメンの審査・登録・管理状況 ・がん薬物治療の安全確保体制、投与量や内容の確認 ・安全キャビネットを用いた注射用抗がん剤の調整・混合作業 <p>【検査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病理部門の人員配置と標本管理 臨床検査部(病理・細胞診検査部門) ・放射線治療部門の人員配置と機器管理 地下一階 放射線治療室 <p>【リハビリテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションプログラム <p>【がん情報・相談支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓口の稼動状況 <p>【病診連携室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療連携
16:00~16:45(0°45')	<input type="checkbox"/> ディスカッション	※ 病院長
16:30	終了	

第2回試行調査

1. 日 時：平成20年1月28日（月）
2. 場 所：徳島大学病院
（地域がん診療連携拠点病院）
3. 目 的：地域がん診療連携拠点病院のがん診療機能の実態を把握し、評価項目の妥当性の検証を行う
4. 参加者：【研究者】6名

高上 洋一（国立がんセンター中央病院薬物療法部長）
今中 雄一（財団法人日本医療機能評価機構研究開発担当理事）
加藤 裕久（国立がんセンター中央病院薬剤部副薬剤部長）
森 文子（国立がんセンターがん対策情報センター）
関本 美穂（京都大学大学院医学研究科講師）
白井 貴子（京都大学大学院医学研究科）

【機構事務局】2名

辻 典明（財団法人日本医療機能評価機構研究開発部）
山口 亜弓（財団法人日本医療機能評価機構研究開発部）

【病院側研究協力者】

香川 征（病院長）
古本 博孝（がん診療連携センター長）
副センター長、がん診療企画部門長、がん登録部門長、がん化学療法部門長
がん予防・診療広報・相談部門長、がん緩和部門長
薬剤部長
苛原 稔（臨床試験管理センター長）
大岡 裕子（看護部長）
小林 保数（医事課医療等支援部門）
栄養管理室長など約30名

5. 当日の進行

時間	内容	場所・病院側出席者など
13:20～13:30(0°10')	□研究者集合	病院正面玄関
13:30～15:15(1°45')	□開始挨拶・資料確認 ※挨拶およびメンバー紹介 ※スケジュール確認と調整 ※進め方および資料の確認など □インタビュー ※がん診療体制や活動等の概要について確認	※ 院長、看護部長、関連部門の診療責任者など

15:15~16:15(1°00')	□関係部署・病棟の訪問 ※インタビュー・資料・状況の確認 などによる評価および改善支援	【病棟】 ・患者療養環境 ・チーム医療の中で看護師が果たす役割の確認 【化学療法センター】 ・外来抗がん剤治療の提供体制 【薬剤部】 ・レジメンの審査・登録・管理状況 ・がん薬物治療の安全確保体制、投与量や内容の確認 ・安全キャビネットを用いた注射用抗がん剤の調整・混合作業 【緩和ケアセンター】 ・緩和ケアの提供体制 緩和ケア科 【検査】 ・病理部門の人員配置と標本管理 臨床検査部(病理・細胞診検査部門) ・放射線治療部門の人員配置と機器管理 放射線治療室 【医療相談室・患者図書室】 ・窓口の稼動状況 【病診連携室】 ・地域医療連携 【外科病棟】 ・患者の療養環境
16:00~16:15	□cancer board 見学	
16:15~16:45(0°30')	□ディスカッション予備時間	※ 院長、看護部長、関連部門の診療責任者など
16:45	終了	

第3回試行調査

1. 日 時：平成20年1月29日（火）
2. 場 所：徳島県立中央病院
（都道府県がん診療連携拠点病院）
3. 目 的：地域がん診療連携拠点病院のがん診療機能の実態を把握し、評価項目の妥当性の検証を行う
4. 参加者：【研究者】6名
 高上 洋一（国立がんセンター中央病院薬物療法部長）
 今中 雄一（財団法人日本医療機能評価機構研究開発担当理事）
 加藤 裕久（国立がんセンター中央病院薬剤部副薬剤部長）
 森 文子（国立がんセンターがん対策情報センター）
 関本 美穂（京都大学大学院医学研究科講師）

白井 貴子（京都大学大学院医学研究科）

【機構事務局】2名

辻 典明（財団法人日本医療機能評価機構研究開発部）

山口 亜弓（財団法人日本医療機能評価機構研究開発部）

【病院側研究協力者】

永井 雅巳（病院長）

臨床腫瘍センター長、プロトコール長、病理診断部門長、放射線治療部門長、
薬剤部長、看護部長、外来看護師長、地域医療センター長（事務課長兼務）
など

5. 当日の進行

時間	内容	場所・病院側出席者など
8:50～9:00(0°10')	□研究者集合	病院正面玄関
9:00～10:30(1°30')	□開始挨拶・資料確認 ※挨拶およびメンバー紹介 ※スケジュール確認と調整 ※進め方および資料の確認など □インタビュー ※がん診療体制や活動等の概要について確認	診療、がん登録、看護など各グループに分かれヒアリングを実施。
10:30～12:00(1°30')	□関係部署・病棟の訪問 ※インタビュー・資料・状況の確認などによる評価および改善支援	<p>【病棟】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者療養環境 ・チーム医療の中で看護師が果たす役割の確認 <p>【外来】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来抗がん剤治療の提供体制 <p>【薬剤部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジメンの審査・登録・管理状況 ・がん薬物治療の安全確保体制、投与量や内容の確認 ・安全キャビネットを用いた注射用抗がん剤の調整・混合作業 <p>【医療相談室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓口の稼動状況 <p>【病診連携室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療連携
12:00～12:30(0°30')	□ディスカッション	※ 院長、看護部長、関連部門の診療責任者など
12:30	終了	

第4回試行調査（ヒアリングのみ）

1. 日 時：平成20年3月18日（火）
2. 対 象：京都桂病院
（地域がん診療連携拠点病院）
3. 目 的：地域がん診療連携拠点病院のがん診療機能の実態を把握し、評価項目の妥当性の検証を行う
4. 参加者：【研究者】2名
今中 雄一（財団法人日本医療機能評価機構研究開発担当理事）
関本 美穂（京都大学大学院医学研究科講師）
【病院側研究協力者】
野口 雅滋（病院長）
若園 吉裕（小児科部長、臨床研修・TQM 外来業務改善担当）
呼吸器センター部長、薬剤部長、緩和ケア担当看護師など

第5回試行調査（ヒアリングのみ）

5. 日 時：平成20年3月26日（水）
6. 対 象：市立長浜病院
（地域がん診療連携拠点病院）
7. 目 的：地域がん診療連携拠点病院のがん診療機能の実態を把握し、評価項目の妥当性の検証を行う
8. 参加者：【研究者】2名
今中 雄一（財団法人日本医療機能評価機構研究開発担当理事）
関本 美穂（京都大学大学院医学研究科講師）
【病院側研究協力者】
琴浦 良彦（病院長）
多賀 俊明（副病院長）